

一ツ瀬川 漁協 協同組合
稚アユ遡上に期待
産卵床造成し受精卵放流
20,11,29 宮日

三ツ瀬川の産卵床に受精卵を放流する一ツ瀬川漁協の関係者



アユの保護と増殖を図ろうと一ツ瀬川漁業協同組合（田中組会長）は、西郷市の三ツ瀬川に架かる清水橋近くに産卵床を造成した。同漁協は毎年、同川に5000から10万の稚アユを放流しているが、近年は天候の影響が大きく、洪水や高水など水質環境が変化するため、同川で初の産卵床造成を決めた。約20万

粒の受精卵と、約300万の成魚ものほ放流した。

産卵床の造成は、県内水面漁業協同組合連合会の委託事業。重機で川底を掘削して泥土を盛り上げて約2千平方メートルを造成し、10月末に完成した。

放流した受精卵と成魚は、「あめの渡辺 延岡淡水養魚場」（延岡市・後藤慎治場

長）が無償提供し、一ツ瀬川漁協と同社員ら約10人で放流。受精卵は田中組会長が川に漬かり、器からそっと川に流すのを参加者が見守った。

同漁協は稚魚の放流と、産卵床設置は今後も続ける方針。田中組会長は「産卵床は初めてで、効果は分からない面もあるが、稚アユの遡上（そじまう）に期待したい」と話していた。